

茅ヶ崎市内で分布を拡大するシロイヌナズナ

岸 一弘*

1 はじめに

シロイヌナズナ *Arabidopsis thaliana* (L.) Heynh. は、三輪(1996)によれば茅ヶ崎市内(以下、市内)では南東部で局所的に確認されているだけで、絶滅が心配される種とされている。

近年の調査で、市内南部では広範囲に分布していることが確認されたので、以下に報告する。

2 記録

多数確認, 茅ヶ崎市富士見町, 25. IV. 2012 ; 多数確認, 同地, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 松が丘一丁目, 25. IV. 2012 ; 多数確認, 同地, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 松が丘二丁目, 22. IV. 2014 ; 1株確認, 東海岸北一丁目, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 東海岸北二丁目, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 東海岸北五丁目, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 東海岸南一丁目, 25. IV. 2012 ; 多数確認, 同地, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 東海岸南二丁目, 22. IV. 2014 ; 多数確認, 中海岸一丁目・カトリック茅ヶ崎教会敷地, 27. V. 2014 ; 少数確認, 茅ヶ崎三丁目, 12. VI. 2014

3 結果及び考察

今回記録されたのは、上記の 10 か所である。富士見町, 松が丘一丁目, 松が丘二丁目, 東海岸北一丁目, 東海岸北二丁目, 東海岸北五丁目, 東海岸南一丁目, 東海岸南二丁目はいずれも鉄砲道の歩道で、鉄砲道沿いに広く分布していることが分かる。鉄砲道より北側の中海岸一丁目, さらに国道一号線より北側の茅ヶ崎三丁目でも確認されたので、市内南部各所に分布が広がっている可能性がある。

自生が確認されたのは、歩道の植え込み, 学校・工場敷地などいずれも土地改変が行われた場所で、表土が保全されている場所での発見事例はなかった。

神奈川県植物誌調査会編(2001)によれば、「本種は帰化の可能性が高いように思われる」と記述されているが、市内における分布状況や広がり方から

も、外来種と見なすのが妥当と考えられる。

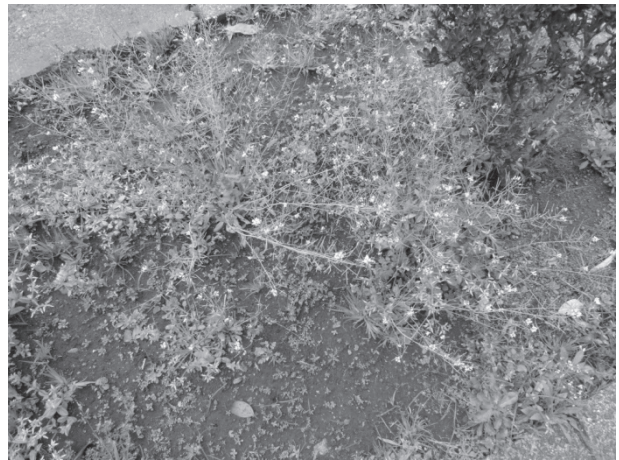


図1. 鉄砲道歩道脇の植え込みに生育するシロイヌナズナ



図2. 茅ヶ崎市内におけるシロイヌナズナの生育地(2012年以降)

参考文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌, 1584 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 三輪徳子, 1996. 茅ヶ崎におけるシロイヌナズナの分布状況. 文化資料館調査研究報告, (4):43-44.

*茅ヶ崎野外自然史博物館